



## 平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成31年2月8日

上場会社名 アキレス株式会社

上場取引所 東

コード番号 5142 URL <https://www.achilles.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊藤 守

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理本部長兼経理部長 (氏名) 河野 和晃

TEL 03-5338-8238

四半期報告書提出予定日 平成31年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	64,328	△1.8	1,417	△23.2	1,879	△13.2	290	△84.5
30年3月期第3四半期	65,500	4.4	1,844	0.0	2,164	1.0	1,876	21.8

(注)包括利益 31年3月期第3四半期 △167百万円 (—%) 30年3月期第3四半期 2,169百万円 (77.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	17.44	—
30年3月期第3四半期	108.16	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第3四半期	77,387	42,852	55.4	2,636.74
30年3月期	79,566	45,059	56.6	2,671.90

(参考)自己資本 31年3月期第3四半期 42,852百万円 30年3月期 45,059百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
31年3月期	—	0.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	86,000	△2.2	1,200	△48.8	1,800	△35.0	200	△91.2	12.09

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年3月期3Q	16,762,714 株	30年3月期	17,462,714 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

31年3月期3Q	510,714 株	30年3月期	598,541 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年3月期3Q	16,629,282 株	30年3月期3Q	17,350,734 株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における経済情勢は、国内では緩やかながら景気回復基調が継続した一方で、個人消費や消費者物価指数は低い伸びで推移しました。海外では米国やアジア新興国経済が堅調に推移したものの、米国の外交・貿易問題が懸念材料となり、また年末にかけて主要国の株価が一時急落するなど、先行き不透明な状況が続きました。

このような事業環境のもと、当社グループは企業価値の増大を目指して、お客様が求める商品・ブランド力のある商品創りに注力してまいりました。具体的には、省エネルギー関連製品、環境対応製品、健康・生活関連製品など成長分野とインフラ整備関連分野、およびグローバル化へと積極的な事業展開を推進するとともに、継続してコストダウンおよび省エネルギー・廃棄物の削減に取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高 64,328 百万円(前年同四半期比 1.8%減)、営業利益 1,417 百万円(前年同四半期比 23.2%減)、経常利益 1,879 百万円(前年同四半期比 13.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益 290 百万円(前年同四半期比 84.5%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### <シューズ事業>

ジュニアスポーツシューズブランド「瞬足」は、「THEE SYUNSOKU(ジ・シュンソク)」を新たに投入し拡販に注力しましたが、海外ブランドの台頭などにより前年売上を下回りました。また、「こどもが一日で一番長く履く靴…だから、うわばきを変える。」のキャッチコピーで上市した高機能校内用上履きの「瞬足@SCHOOL」が好評を得ましたが、シューズ事業全体では前年売上を下回りました。なお、競合他社との競争激化により継続して営業利益がマイナスのため、固定資産の減損損失を計上いたしました。

シューズ事業の当第3四半期連結累計期間の業績は売上高 9,925 百万円(前年同四半期比 12.5%減)、セグメント損失(営業損失)は 688 百万円(前年同四半期はセグメント損失 846 百万円)となりました。

#### <プラスチック事業>

車輦内装用資材は、米国および中国向けは自動車マーケットの減速、国内向けは自然災害による自動車メーカーの減産を受け、前年売上を下回りました。

フィルムの国内事業は、産業用でステッカー・建材用が苦戦し、前年売上を下回りました。輸出は、産業用と窓用が好調に推移し、前年売上を上回りました。北米事業は、文具用などが好調に推移し、前年売上を上回りました。農業分野は、猛暑の影響で遮光材が好調でしたが、売上は前年並みとなりました。

建装資材は、新柄投入の効果により壁材が大きく伸長し、前年売上を上回りました。

引布商品は、排水管用ジョイントおよび原反販売が伸長したものの、前年売上を下回りました。

プラスチック事業の当第3四半期連結累計期間の業績は売上高 31,001 百万円(前年同四半期比 0.9%増)、セグメント利益(営業利益)は 2,504 百万円(前年同四半期比 11.5%減)となりました。

### <産業資材事業>

ウレタンは、車輛・寝具・雑貨用など主力製品が好調に推移し、前年売上を大幅に上回りました。

断熱資材は、スチレン製品はブロックの受注が好調に推移し、前年売上を上回りましたが、ボード製品、システム製品は建築向け、パネル製品は畜産物件の延期等で苦戦し、断熱資材全体では前年売上を下回りました。

工業資材は、静電気対策品が、海外半導体ユーザーの生産調整の影響を受け、前年売上を下回りました。

産業資材事業の当第3四半期連結累計期間の業績は売上高23,401百万円(前年同四半期比0.1%減)、セグメント利益(営業利益)は1,507百万円(前年同四半期比14.1%減)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産は77,387百万円で前連結会計年度末に比較して2,178百万円減少しました。

資産の部では、流動資産は48,171百万円となり前連結会計年度末に比較して643百万円減少しました。これは主に、商品及び製品が1,674百万円、電子記録債権が792百万円、その他流動資産が415百万円、原材料及び貯蔵品が372百万円増加しましたが、現金及び預金が3,002百万円、受取手形及び売掛金が1,110百万円減少したことによります。固定資産は29,215百万円となり前連結会計年度末に比較して1,535百万円減少しました。これは主に、投資有価証券が885百万円、有形固定資産が487百万円減少したことによります。

負債の部では、流動負債は26,035百万円となり前連結会計年度末に比較して85百万円増加しました。これは主に、未払金が946百万円、未払法人税等が390百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が1,307百万円増加したことによります。固定負債は8,499百万円となり前連結会計年度末に比較して57百万円減少しました。これは主に、退職給付に係る負債が62百万円減少したことによります。

純資産の部は42,852百万円となり、前連結会計年度末に比較して2,207百万円減少しました。これは主に、繰延ヘッジ損益が189百万円増加しましたが、自己株式の取得により1,365百万円、その他有価証券評価差額金が499百万円、利益剰余金が384百万円減少したことによります。なお、自己株式の消却により、資本剰余金及び自己株式がそれぞれ1,525百万円減少しております。以上の結果、自己資本比率は55.4%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成30年11月7日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日(平成31年2月8日)公表の「特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,655	5,652
受取手形及び売掛金	23,332	22,221
電子記録債権	3,500	4,292
商品及び製品	8,745	10,420
仕掛品	1,427	1,627
原材料及び貯蔵品	2,161	2,533
その他	1,065	1,481
貸倒引当金	△72	△57
流動資産合計	48,815	48,171
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,145	7,974
機械装置及び運搬具（純額）	5,584	5,653
土地	4,284	4,254
建設仮勘定	856	489
その他（純額）	596	610
有形固定資産合計	19,468	18,981
無形固定資産	433	302
投資その他の資産		
投資有価証券	4,367	3,482
退職給付に係る資産	3,579	3,615
繰延税金資産	2,199	2,201
その他	840	685
貸倒引当金	△137	△53
投資その他の資産合計	10,848	9,931
固定資産合計	30,750	29,215
資産合計	79,566	77,387

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,172	14,480
電子記録債務	2,942	3,239
短期借入金	2,232	2,342
未払金	2,874	1,928
未払法人税等	544	154
その他	4,183	3,890
流動負債合計	25,950	26,035
固定負債		
長期借入金	3,000	3,000
繰延税金負債	415	405
退職給付に係る負債	4,713	4,651
資産除去債務	371	382
P C B廃棄物処理引当金	46	42
その他	9	18
固定負債合計	8,556	8,499
負債合計	34,506	34,534
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,640	14,640
資本剰余金	8,238	6,712
利益剰余金	20,700	20,316
自己株式	△1,285	△1,124
株主資本合計	42,294	40,544
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,220	721
繰延ヘッジ損益	△106	83
為替換算調整勘定	305	174
退職給付に係る調整累計額	1,344	1,327
その他の包括利益累計額合計	2,765	2,307
純資産合計	45,059	42,852
負債純資産合計	79,566	77,387

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	65,500	64,328
売上原価	51,521	50,992
売上総利益	13,979	13,335
販売費及び一般管理費	12,134	11,918
営業利益	1,844	1,417
営業外収益		
受取利息及び配当金	64	67
その他	368	466
営業外収益合計	432	533
営業外費用		
支払利息	26	24
その他	86	46
営業外費用合計	112	71
経常利益	2,164	1,879
特別利益		
固定資産売却益	495	1
投資有価証券売却益	44	108
保険差益	3	9
為替換算調整勘定取崩益	67	—
特別利益合計	611	119
特別損失		
固定資産売却損	—	5
減損損失	99	1,214
固定資産除却損	126	79
出資金評価損	17	—
特別損失合計	244	1,299
税金等調整前四半期純利益	2,531	699
法人税、住民税及び事業税	518	339
法人税等調整額	136	70
法人税等合計	654	409
四半期純利益	1,876	290
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,876	290



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	1,876	290
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	284	△499
繰延ヘッジ損益	△37	189
為替換算調整勘定	△167	△78
退職給付に係る調整額	211	△17
持分法適用会社に対する持分相当額	2	△52
その他の包括利益合計	293	△457
四半期包括利益	2,169	△167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,169	△167
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	シューズ 事業	プラスチック 事業	産業資材 事業	計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	11,338	30,734	23,428	65,500	—	65,500
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	110	536	647	△647	—
計	11,338	30,845	23,964	66,148	△647	65,500
セグメント利益又は 損失(△)	△846	2,831	1,754	3,739	△1,895	1,844

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,895百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シューズ事業」セグメント及び各報告セグメントに配分していない全社資産において、営業所の移転及び売却方針を決定したことに伴い、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては「シューズ事業」セグメントが61百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産が26百万円であります。

「産業資材事業」セグメントにおいて、売却方針の決定がされた資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては12百万円であります。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	シューズ 事業	プラスチック 事業	産業資材 事業	計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	9,925	31,001	23,401	64,328	—	64,328
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	114	472	587	△587	—
計	9,925	31,116	23,873	64,915	△587	64,328
セグメント利益又は 損失(△)	△688	2,504	1,507	3,323	△1,906	1,417

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,906百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用（一般管理費）であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シューズ事業」セグメントにおいて、競合他社との競争激化により継続して営業利益がマイナスとなり、将来の回収可能性を検討した結果、当初予測したキャッシュ・フローが見込めないため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては1,214百万円であります。